

## I 業務目的

本業務は、若者人口の流出と高齢化による限界集落の増加、地域コミュニティの崩壊、医療など生活に直結する問題、道路、交通など都市基盤に関する課題など様々な問題を抱える中山間地域において、集落の活力を回復し、地域の持つ多面的機能を維持・保全しながら都市部と中山間地域の良好な関係を構築する地域社会の実現を目指して、農林業振興、環境保全、生活・都市基盤整備のあり方や方向性を検討し、必要な施策を効果的に実施する総合的な計画を策定するものです。

## II 業務内容

### (1) 中山間地域の現状把握

中山間地域に関する既存データを収集・整理するとともに、市各部局の所管事業や関連施策を整理し、本市の中山間地域の現状を把握します。

### (2) 市民ニーズの把握

#### ア 中山間地域住民の意向調査

旧安倍6村をはじめとする、中山間地域の住民などから今後の施策の方向性を探るための情報を収集します。

#### イ 市街地在住中山間地域出身者の意向の把握

中山間地域から転居し現在は市街地に居住する住民に対してアンケート調査を実施して、中山間地域の振興に対する意向を把握するとともに、中山間地域振興策を検討する際において欠かせない情報の収集を行います。

### (3) 調査結果の分析及び振興施策体系の検討と振興策の取りまとめ

(1) 及び (2) の調査結果をもとに、本市における特性を踏まえ、振興施策体系の検討と振興策を取りまとめます。

## III 中山間地域の現状把握

### 1 中山間地域を取り巻く時代背景と存在意義

本市の中山間地域は市域の約8割を占め、本山茶や有東木のわさび、両河内のお茶、筍に代表される優良な農林産物や杉・ヒノキなど木材の生産の場であるとともに、生活の場として、重要な役割を担っています。

また、中山間地域の森林や農地は、土砂流出・崩壊防止、水源かん養などの国土保全機能や環境保全機能といった重要な機能を有し、集落は、それぞれが古い歴史や伝統、文化など代替性のない魅力と価値を持っています。

さらに、中山間地域は、都市部住民にとって豊かな自然と触れ合い心身ともにリフレッシュするための憩いの場として重要な役割を担っています。

近年、ゆとりやうるおいのある生活スタイルを志向する人々が増加する中で、中山間地域そのものが有する豊かな自然や伝統、文化に関心を持ち、地域に愛着を感じ、そこで暮らすことに魅力を感じる人も増えています。

しかし、近年、基幹産業である農林業の収入の低迷に伴い、若年層を中心に都市部への人口流出が進み、急激な高齢化が進んでいます。日本全体が人口減少期に入ったといわれる現在、中山間地域においては、このような人口の流出と高齢化は特に顕著であり、農林業の後継者不足を生み出すとともに、地域の担い手不足をも発生させ、コミュニティの存続が危ぶまれる集落が増加するという状況から、いわゆる「限界集落」という概念が生まれてきています。

このような地域においては、各集落が受け継いできた伝統・文化などの地域資源は消滅する危機にあります。さらに、農林業等により維持されてきた中山間地域が持つ国土保全機能や環境保全機能といった多面的機能や、歴史、伝統、文化などの代替性のない価値も失ってしまう可能性があります。

世界に目を転じると、森林の伐採などに伴う森林資源の減少、人口の急増や気候変動に伴う食糧不足が懸念されています。また、最近の経済動向においては、世界的な不況により、製造業を中心に大幅な人員削減が行われるなど、雇用は多大な影響を受け社会的な問題となっています。

このような中、農林業は、森林資源や食の安全の供給源として見直されつつあり、農林業を基幹産業とする中山間地域は、新たなビジネスを展開する場として期待されます。また、最近の雇用環境の悪化から就労の受け皿としても注目されており、今後、農林業の担い手の減少が予測される中で、新たな就労の場としても想定されます。

このように中山間地域は、大きな役割を担うことが期待されており、その存在の意義はますます高まっています。

さらに、都市部に先行する形で人口減少・高齢化の問題に直面している中山間地域への対応は、少子高齢化が急速に進み人口減少局面に入りつつある社会において、今後の行政運営における政策展開の先駆けとしてその試金石となるものであり、重要な意味を持っているといえます。

本市では、統計上では現れていなかった中山間地域の過疎・高齢化に早くから注目し、平成 9 年度に「静岡市中山間地域振興計画」を策定して、中山間地域の活性化のための施策に取り組んできましたが、中山間地域が抱えている問題の構造は複雑化し、3 度にわたる市町村合併に加え、その後の社会経済情勢などの急激な変化によって計画策定時よりさらに深刻さを増しています。また、茶をはじめとする農業の低迷、木材価格の低下に伴う林業の低迷によって地域経済が沈滞し、生産年齢人口の地域外流出、一次産業従事者の高齢化、さらに少子化に起因する集落住民の高齢化などにより、集落の機能低下は加速度的に進行しています。

こうした喫緊の課題に対応するため、現在実施している施策を効果的に集約するとともに、全庁的、総合的な視点に立った施策を盛り込んだ新たな「静岡市中山間地域総合振興計画」を策定する必要があります。

## 2 計画の対象区域

本計画の対象区域は下記のとおりです。ただし、事業実施に当たっては、地域の状況等を考慮し、対象区域外においても弾力的に運用する場合があります。

### (1) 葵区

ア 特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備に関する法律の指定地域

旧 村 名	地 区 名
井川村	井川
梅ヶ島村	梅ヶ島学区
大河内村	大河内学区
玉川村	玉川地区
大川村	大川地区
清沢村	清沢地区
中藁科村	中藁科地区
南藁科村	南藁科地区 ※牧ヶ谷を除く
服織村	服織西学区 ※服織学区を除く
美和村	足久保学区、松野学区 ※ 安倍口学区、美和学区を除く

### 【除外地域】

※市街化区域を含む地域

※圏域人口が 1 万人程度で市街地と連担した都市空間を形成している地域

- イ 新東名高速道路整備地区以北で、中山間地域と規定した地域  
賤機北学区、賤機中学区、北沼上学区

(2) 清水区

中山間地域等直接支払制度の県知事特認地区のうち下記の地域

庵原地区（伊佐布、杉山、広瀬、茂畑、吉原）

小島地区（小河内、宍原）

両河内（中河内、大平、河内、葛沢、土、西里、布沢、和田島、清地、茂野島、高山）

**【除外地域】**

※市街化区域を含む地域

※森林、畑の占める割合が 75%未満で、市街地と連担した都市空間を形成している地域

## IV 市民ニーズの把握

### 1 住民意向調査

#### (1) 調査目的

計画地域の住民を対象にヒアリング調査等を実施し、地域の現状・問題点、ニーズ及び将来についての考え方など、今後、本計画の施策の方向性を検討するための情報を収集することを目的とします。

#### (2) 調査対象

- ・計画対象地域内で 65 歳以上の高齢者が集落人口の 50%を超えている 17 集落
- ・計画対象区域内の 14 地区（原則として小学校区単位）

#### (3) 調査方法

##### ア ワークショップ形式

住民自らが集落の問題を共有し、主体的に課題を解決していく取組としてモデルケースに位置づけ、小規模集落であり、かつ地域要望等も考慮し 2 集落（口仙俣、大間）において実施。

他出している家族までの関係性を含めた世帯・集落の実態を把握し、それぞれの家と集落全体の具体的な将来像を住民自らが考える場とします。また、ワークショップを通して住民同士が集落の現状を知り、課題に目を向けるとともに、話し合いによりコミュニケーションを深める場とします。

##### 【ワークショップの流れ】

- ① 集落の住民に集まってもらい、集落の簡単な地図を作製し、それぞれの家と現在居住している世帯員（性別、続柄、年齢）を記入する。
- ② 他出している家族（性別、続柄、年齢）と他出先を記入する。
- ③ 他出している家族との関係性の有無・程度を確認し、U ターンの可能性を考えた上で、10 年後の各世帯の将来状況を把握する。
- ④ ①～③の資料を基に、それぞれの家の課題と対策を検討する。
- ⑤ それぞれの家の課題を踏まえ、集落全体として、将来の世帯数、年齢構成、他出者のサポート等を確認し、集落の課題と今後の取組を話し合う。

##### イ グループヒアリング方式

集落ごとに住民の参加を得て、3～4 人単位のグループを作り、他出者までの関係性を含めた世帯の実態を聞き取るとともに、現在困っていること、集落の将来についての提案など意見交換を実施。（口仙俣、大間以外の 15 集落）

ウ 意見交換会方式

地区ごとに住民の参加を得て、現在困っていること、地区の将来についての提案などを意見カードに記入し、意見交換を実施。(14 地区)

(4) 実施状況

ア ワークショップ (2 集落) 各 3 回 全 6 回実施

(玉川地区)

口仙俣 : 8/5 (出席者 13 人)、8/27 (出席者 11 人)、9/10 (出席者 12 人)

(大川地区)

大 間 : 9/1 (出席者 6 人)、9/12 (出席者 5 人)、9/30 (出席者 5 人)

イ グループヒアリング (15 集落 出席者計 228 人) 各 1 回 全 19 回実施

(玉川地区)

奥 仙 俣 : 8/27 (出席者 9 人) 油 野 : 9/4 (出席者 5 人)

奥池ヶ谷 : 9/4 (出席者 8 人) 横 沢 : 9/5 (出席者 22 人)

(大川地区)

枋 沢 : 9/17 (出席者 16 人) 崩 野 : 9/18 (出席者 12 人)

槇 尾 : 9/19 (出席者 19 人) 湯 ノ 島 : 9/26 (出席者 17 人)

(大河内学区)

中 平 : 10/3 (出席者 17 人)

(井川)

上 坂 本 : 9/7 (出席者 11 人) 口 坂 本 : 10/14 (出席者 10 人)

小 河 内 : 10/21 (15 軒聴取) 岩 崎 : 10/21 (出席者 13 人)

田 代 : 11/4 (出席者 13 人) 大 島 : 11/18 (14 軒聴取)

井川大日 : 11/4 (6 軒聴取) 閑 蔵 : 11/6 (6 軒聴取)

西 山 平 : 11/6 (12 軒聴取) 井川本村 : 11/18 (出席者 3 人)

※田代 (田代、大島)、井川 (井川大日、閑蔵、西山平、井川本村) については、地域が広いため、町内会ごとにヒアリングを実施

※小河内、田代 (大島)、井川 (井川大日、閑蔵、西山平) については、各世帯を個別訪問し、ヒアリングを実施

ウ 意見交換会（14 学区 出席者計 269 人）各 1 回 全 14 回実施

庵原：	11/25	（出席者 26 人）	小島：	11/26	（出席者 19 人）
梅ヶ島：	11/27	（出席者 23 人）	清沢：	12/2	（出席者 19 人）
両河内：	12/3	（出席者 33 人）	大河内：	12/4	（出席者 23 人）
中藁科：	12/5	（出席者 11 人）	賤機北：	12/6	（出席者 15 人）
松野：	12/7	（出席者 5 人）	足久保：	12/11	（出席者 21 人）
北沼上：	12/12	（出席者 10 人）	服織西：	12/16	（出席者 40 人）
賤機中：	12/17	（出席者 8 人）	南藁科：	12/18	（出席者 16 人）

(5) 結果概要

■ワークショップ・グループヒアリング概要～特徴的な意見

項目	概要（*は提案）
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、若者世代が市街地へ流出し、一人暮らし高齢者の増加、地域活動の担い手の減少といった不安がある。【ほぼ全地区】</li> <li>・移住を希望している人がいても住める家がない。【ほぼ全地区】</li> </ul> <p>*空き家の有効利用</p>
生活サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の確保が大変。</li> <li>・農協、郵便局統廃合により金融サービス拠点の廃止が不安。</li> <li>・買い物は車で出掛けまとめ買い。運転ができなくなったら困る。</li> </ul> <p>*自主運行バスを買い物専用にご利用できないか。【井川】</p>
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気なうちはいいが、一人住まいになったときや体の自由が利かなくなったときが不安。介護サービスを受けることが難しい。【ほぼ全地区】</li> </ul>
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの就学に合わせて市街地へ移転する親が多い。【ほぼ全地区】</li> <li>・生徒数減少による複式学級化、廃校への不安。【ほぼ全地区】</li> </ul> <p>*公共施設の職員は、地域に家族で暮らしてもらいたい。</p> <p>*都市部の学校に馴染めない子が、山間地の学校で暮らすなどの対策を考えては。</p>
医療・救急 防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、診療所が維持されるか不安。【全地区】</li> <li>・救急車の到着に1時間以上かかる。ドクターヘリに期待。【全地区】</li> <li>・医療関係、災害時のため、ヘリポートの確保が必要。【ほぼ全地区】</li> </ul>
農林業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶業・林業の価格低迷、肥料・資材の値上がり、獣害など問題が多く、後継者がいない。【ほぼ全地区】</li> </ul> <p>*農業運営の見直し（統合、企業化など）</p>
産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに働く場がないため、若者が市街地へ流出している。【ほぼ全地区】</li> <li>・公共工事の減少により、土木・建設関係が衰退している。</li> </ul>
道路・交通網	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路整備、維持管理を。道路の決壊などの復旧対策を。</li> <li>・バスの便数の減少、高齢化が進む今後を思うと廃止が不安。</li> </ul> <p>*自主運行コミュニティバスの導入</p>
情報インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADSLが整備されるとのことだが、光回線を望む。</li> <li>・携帯電話が通じないところがある。</li> <li>・地上波デジタル放送が映るか心配である。</li> </ul>
多面的機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水源、二酸化炭素削減効果の点から、上流部の果たす役割は大きい。維持するためにはコストがかかることを市民・行政も認識を。【井川】</li> </ul>



■意見交換会概要～特徴的な意見

項目	概要（*は提案）
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、若者世代が市街地へ流出し、一人暮らし高齢者の増加、地域活動の担い手の減少といった不安がある。【ほぼ全地区】</li> <li>・他の地域から移住してきた人がいて、人口が増えている地区もある。50～60代の人が多い。【清沢・両河内・中藁科・賤機北・松野】</li> <li>・移住希望者がいても住む家、土地がない。【清沢・両河内・松野】</li> </ul>
生活サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農協、郵便局統廃合により金融サービス拠点の廃止が不安。</li> </ul>
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>*介護サービスへの補助金は、都市部と同条件では厳しいので補助率が低くても山間地にあったサービスに対する補助をしてほしい。【清沢】</li> </ul>
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの就学に合わせて市街地へ移転する親が多い。【ほぼ全地区】</li> <li>・生徒数減少による複式学級化、廃校への不安。【ほぼ全地区】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自然環境を活かした障害のある子どもの受け入れ【大河内】</li> </ul>
医療・救急 防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、診療所が維持されるか不安。【庵原・梅ヶ島・大河内】</li> <li>・救急車・ドクターヘリなど救急体制への不安。【梅ヶ島・足久保】</li> <li>・災害時の孤立を防ぐため、ヘリポートの確保が必要。【小島・梅ヶ島・清沢・大河内】</li> </ul>
農林業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶業・林業の価格低迷、肥料・資材の値上がり、獣害など問題が多く、後継者がいない。【ほぼ全地区】</li> <li>・農地を宅地などに変えて活用することを考えているが、都市計画で市街化調整区域に入っているため転売ができない。【中藁科・賤機北・松野・北沼上など】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*農業運営の見直し（統合、企業化など）【庵原】</li> </ul>
産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに働く場がないため、若者が市街地へ流出している。【ほぼ全地区】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*地区の仕事（農林業のほか建設業など他産業も）を地域で賄うワークシェアリング型組織を創設する。【清沢】</li> </ul>
道路・交通網	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの便数の減少、今後を思うと廃止が不安。【ほぼ全地区】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自主運行コミュニティバスの導入【庵原・小島・両河内・大河内】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>*南北の道路をつなぐ環状線の整備【小島】</li> </ul>
情報インフラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光回線を望む。【梅ヶ島・賤機北】</li> </ul>
多面的機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>*森・水の大切さを市民にもっとPRする。【大河内】</li> </ul>

## 2 静岡市中山間地域出身他出者意識調査

### (1) 調査目的

本市の中山間地域出身で、現在、他地域に転出した人に対し、出身地域等への意識や意見に関する調査を行い、計画策定のための資料とすることを目的とします。

### (2) 調査対象

計画対象地域内において65歳以上の高齢者が集落人口の50%を超えている17集落の出身で、現在、他地域に転出している男女（平成20年3月31日現在）

### (3) データの収集方法

65歳以上の高齢者が集落人口の50%を超えている17集落を対象に実施したヒアリング調査の参加者に協力を得て、他地域に転出している家族等の情報を収集。

### (4) 標本数

184人

### (5) 調査方法

郵送法

### (6) 調査期間

平成20年12月5日から12月19日まで

### (7) 回収結果

発送数 184      回答数 89      回答率 48.4%

### (8) 有効回答数（率）

89      (48.4%)

### (9) 集計結果

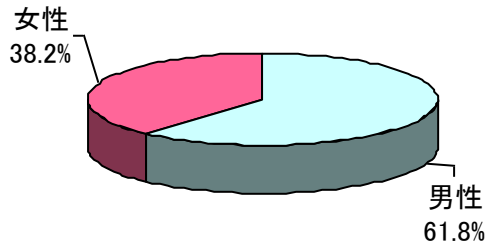
#### 【注意事項】

本調査は、標本データの収集にあたり、ヒアリング参加者の協力による情報提供を募ったため、集落、年代、性別等に偏りがあり、また標本数に制約があります。

したがって、調査結果は、必ずしも母集団の一般的な意識を導き出すには至らないため、協力者の意識の傾向や意見を示したものとして取り扱い願います。

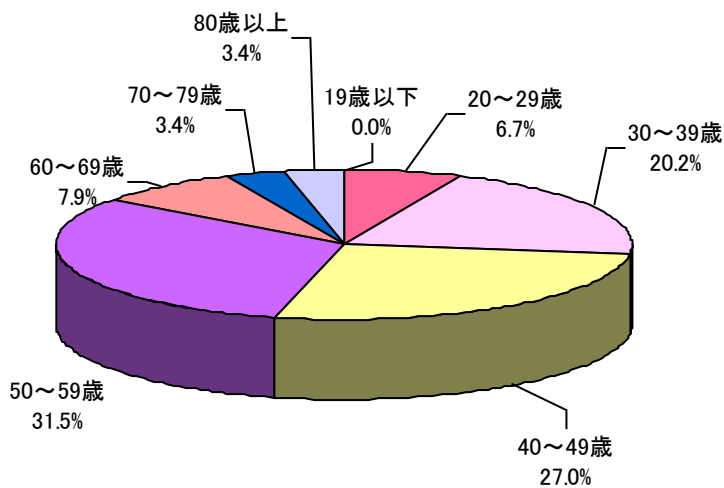
回答者の属性について

1 あなたの性別をお答えください。



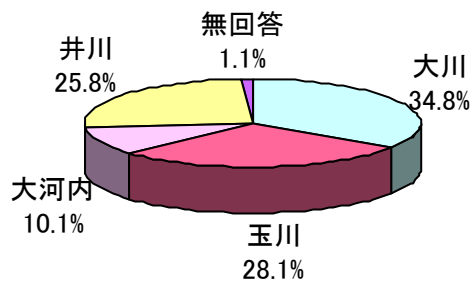
	数	構成比
男性	55	61.8%
女性	34	38.2%
合計	89	100%

2 あなたの年齢をお答えください。



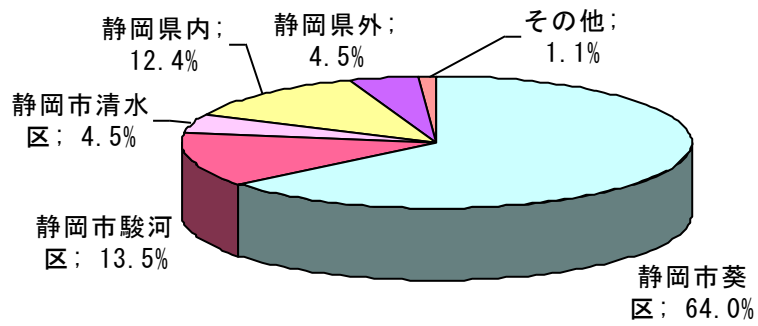
	数	構成比
19歳以下	0	0.0%
20~29歳	6	6.7%
30~39歳	18	20.2%
40~49歳	24	27.0%
50~59歳	28	31.5%
60~69歳	7	7.9%
70~79歳	3	3.4%
80歳以上	3	3.4%
合計	89	100%

3 あなたの出身地域（実家）をお答えください。



	数	構成比
大川	31	34.8%
玉川	25	28.1%
大河内	9	10.1%
井川	23	25.8%
無回答	1	1.1%
合計	89	100%

4 あなたの現在のお住まいをお答えください。

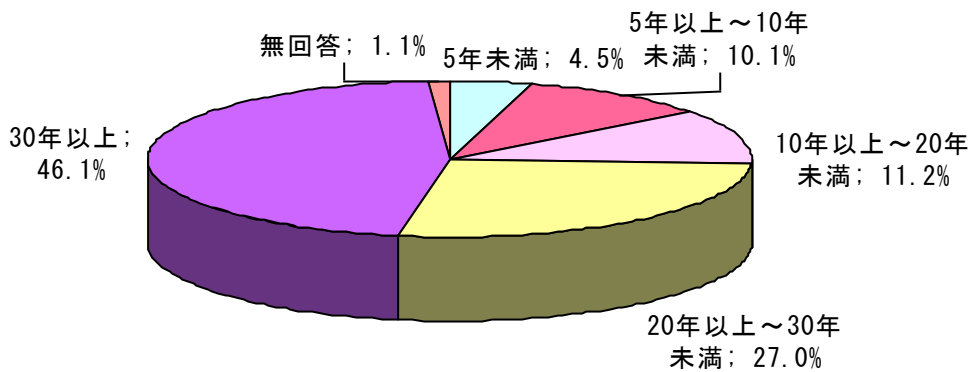


	数	構成比
葵区	57	64.0%
駿河区	12	13.5%
清水区	4	4.5%
静岡市内	11	12.4%
静岡県外	4	4.5%
その他	1	1.1%
合計	89	100%

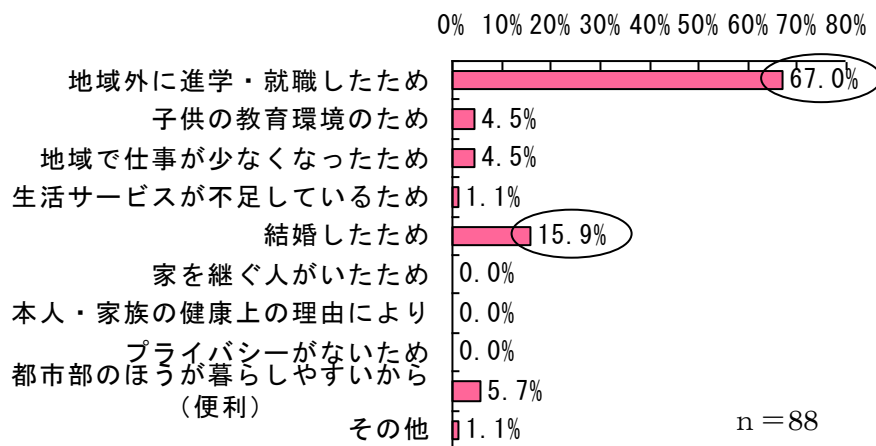
- ・ 「葵区」が64.0%と一番多く、次に「駿河区」で13.5%であった。「葵区」「駿河区」「清水区」の合計が82.0%と、静岡市内に転出している人の割合が高い結果となった。

出身地域からの転出状況について

1 あなたが出身地域から転出してどのくらい経っていますか？あてはまるもの1つを選んで番号に○をつけてください。



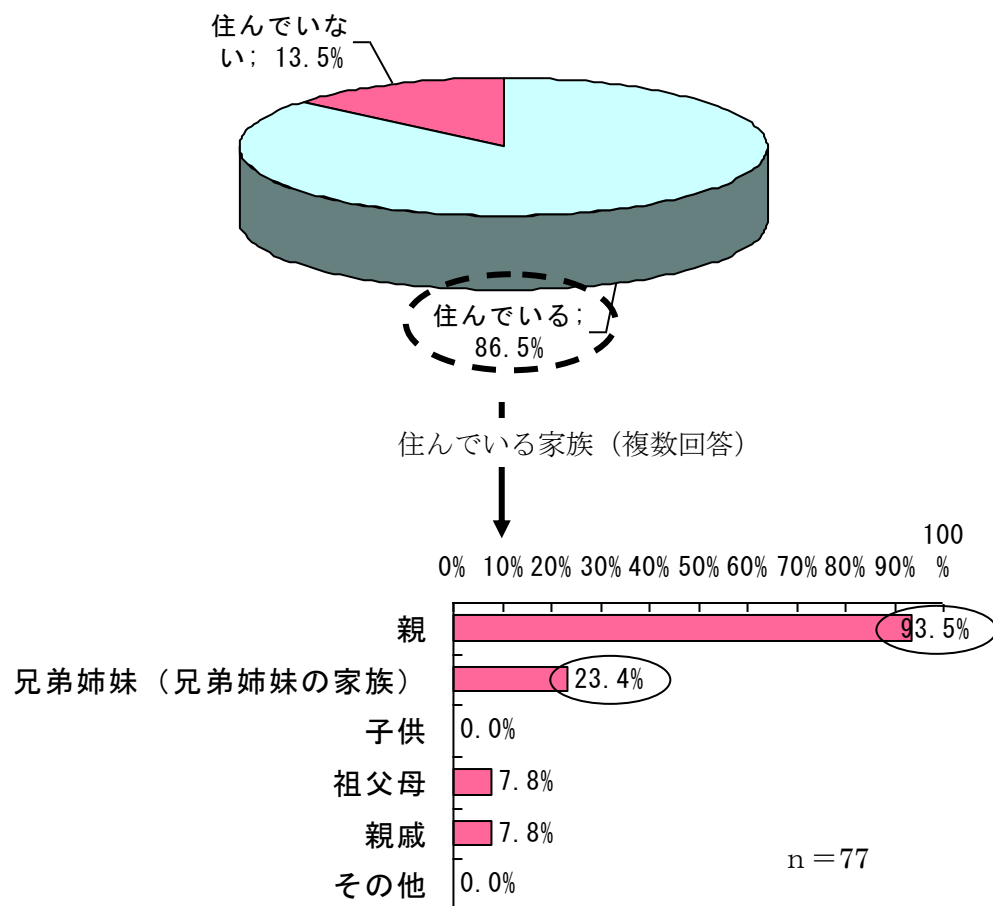
2 あなたが、転出した理由は何ですか？もっともあてはまるもの1つを選んで番号に○をつけてください。(複数回答)



・ 転出の理由としては、「地域外に進学・就職したため」が 67.0%と一番多く、次に「結婚したため」で 15.9%であった。

### 出身地域に住んでいる家族について

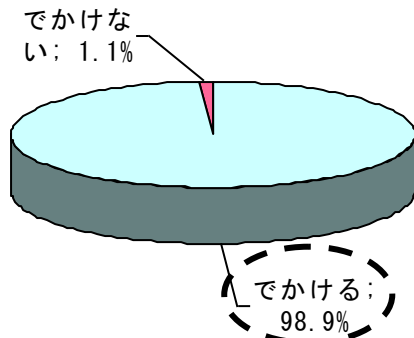
3 現在出身地域（実家）に、どなたかがお住みですか？住んでおられる場合は矢印の設問のあてはまるものすべてに○をつけてください。



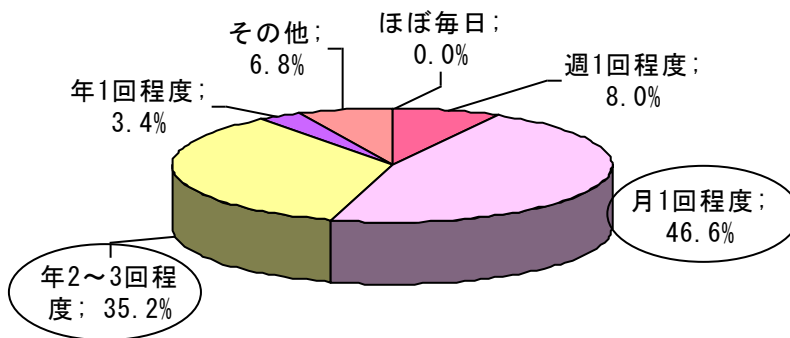
- ・ 出身地域に住んでいる家族については、「親」が93.5%と一番多く、次に「兄弟姉妹」で23.4%であった。

出身地域との関わりについて

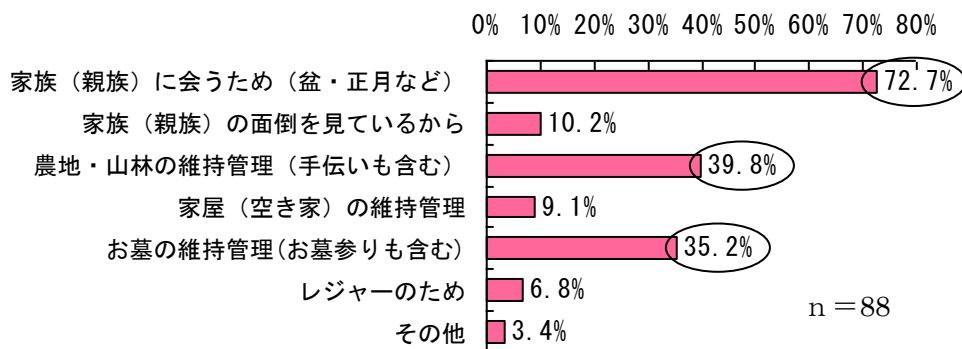
4 あなたは、出身地域（実家）におでかけすることがありますか。どちらか選んで番号に○をつけてください。



5 どのくらいの頻度ででかけますか？  
もっともあてはまるもの1つを選んで番号に○をつけてください。



6 あなたが出身地域（実家）にでかける理由は何ですか？あてはまるものすべてを選び番号に○をつけてください。（複数回答）

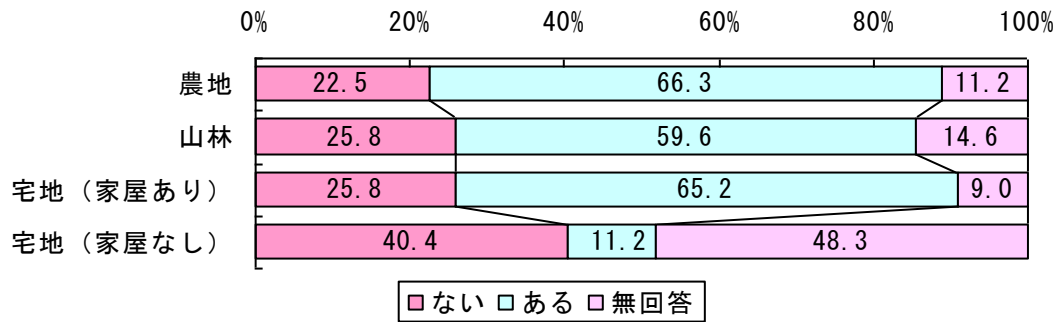


・ 出身地域にでかける理由として「家族（親族）に会うため（盆・正月など）」が72.7%と一番多く、次いで「農地・山林の維持管理（手伝いも含む）」が39.8%、「お墓の維持管理（お墓参りも含む）」が35.2%であった。

※ 7「でかけない理由」については、1件のみの回答であったため、分析していない。

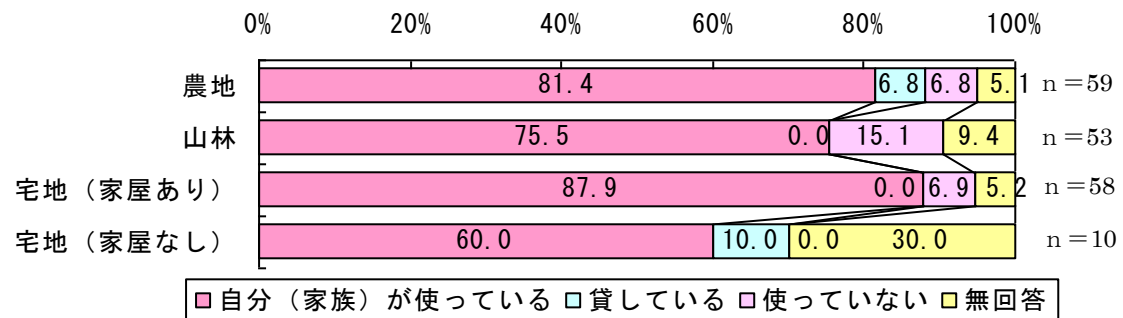
出身地域に所有している財産について

8 あなたまたは、あなたのご家族が出身地域に所有している財産はありますか。また、それらについて今後どのように活用をお考えですか？所有している財産それぞれについてもっともあてはまるもの1つを選んで番号に○をつけてください。

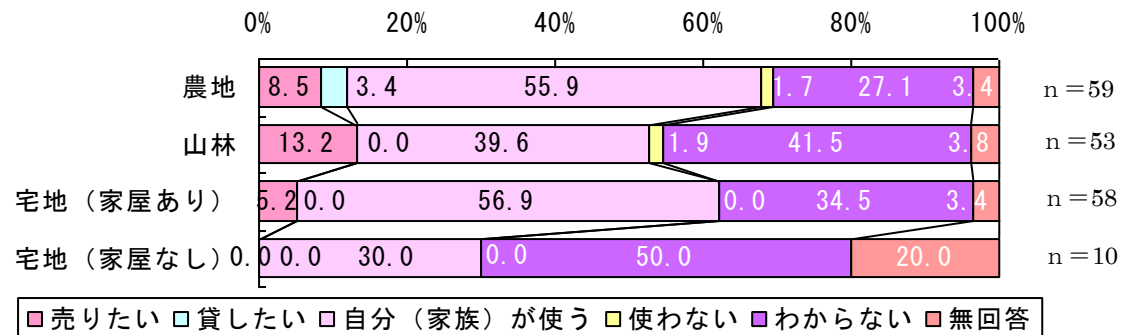


現在の状況

「ある」を選択した方



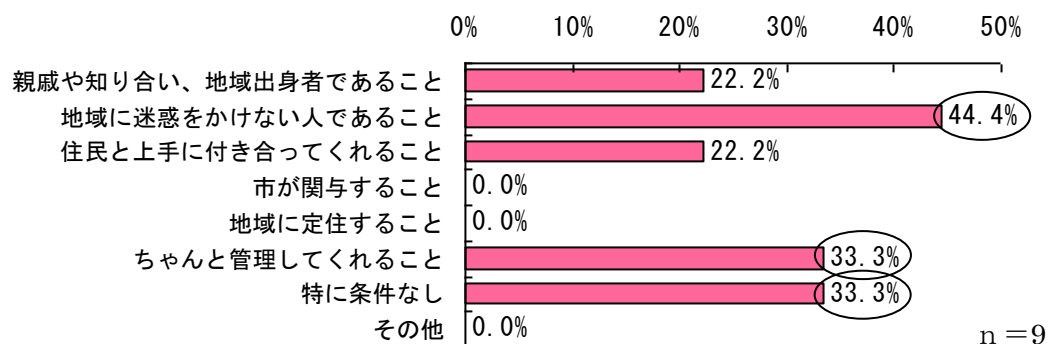
今後について



- ・ 所有している財産については、「農地」66.3%、「山林」59.6%、「宅地（家屋あり）」65.2%とそれぞれ半数以上が所有しており、現在の使用状況については、いずれも「自分（家族）が使っている」が一番多かった。今後について、「山林」では、「自分（家族）が使う」が39.6%と他の財産と比べ低い結果となり、また、「売りたい」については、13.2%と他の財産と比べ高い結果となった。



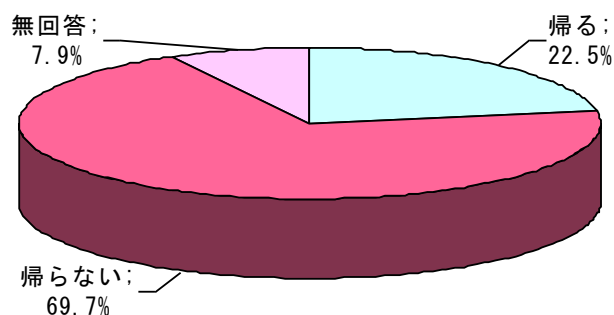
9 「売る」あるいは「貸す」時の条件はありますか？あてはまるものすべてを選んで番号に○をつけてください。（複数回答）



- ・ 「売る」「貸す」ための条件としては、「地域に迷惑をかけない人であること」が 44.4% と一番多かったが、「特に条件なし」も 33.3% と次いで割合が多い結果となった。

#### 出身地域への帰郷意思について

10 あなたは、今後出身地域に帰りますか、それとも帰りませんか？また、その理由をお書きください。



- ・ 「帰らない」が「帰る」を大きく上回る結果となった。「帰る」「帰らない」理由の代表的な意見としては下記のとおり。

##### 【帰る理由】

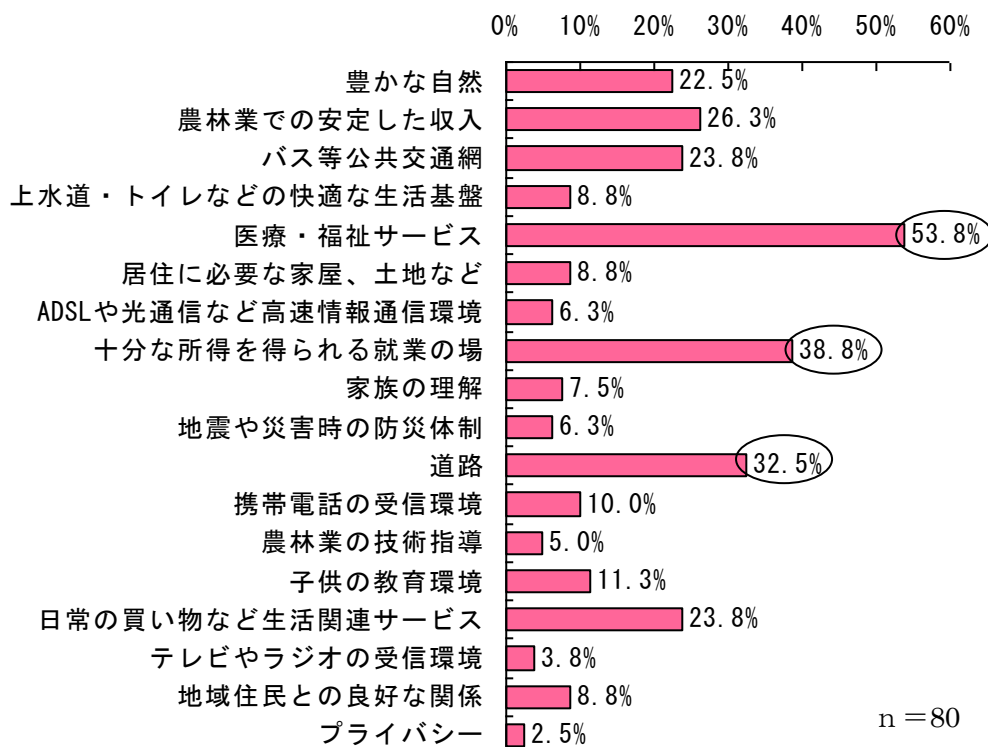
- ・ 先祖から受け継いできた土地と家を守るため。
- ・ 生まれ育った場所が一番落ち着くため。親しい友人も多いため。

##### 【帰らない理由】

- ・ 都市部に家があり、家族もいるため。
- ・ 結婚して嫁いだため。
- ・ 生活できる安定した収入が農林業では得られないため。
- ・ 生活が不便なため。地域の付き合いや行事が度を超してプライバシーがないため。

出身地域で暮らすために重要なものについて

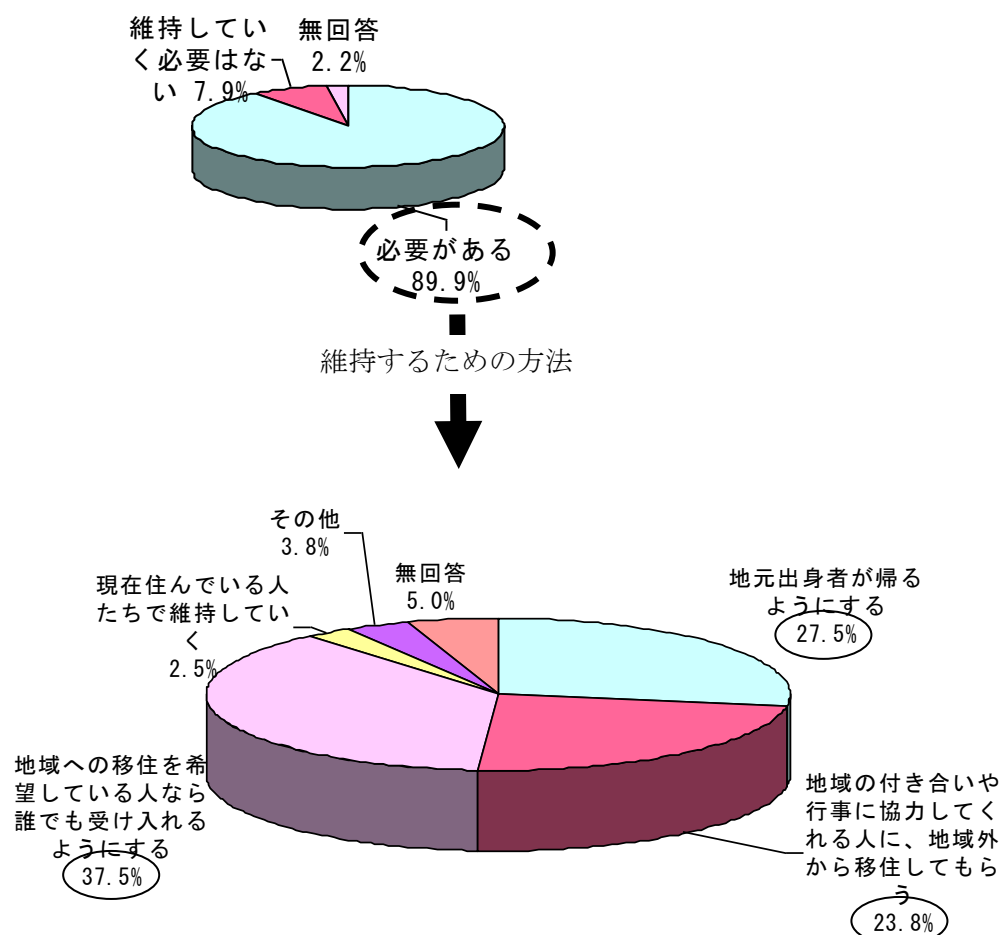
11 あなたが将来出身地域で暮らすとしたら、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つ選んで番号に○をつけてください。



- 出身地域で暮らすために重要なものについては、「医療・福祉サービス」が 53.8% と半数以上が重要と考えており、次いで「十分な所得を得られる就業の場」が 38.8%、「道路」32.5%という結果となった。また、この3項目より割合は落ちるが、「豊かな自然」「農林業での安定した収入」「バス等公共交通網」「日常の買い物など生活関連サービス」で 20%を超える結果となった。

## 出身地域の今後について

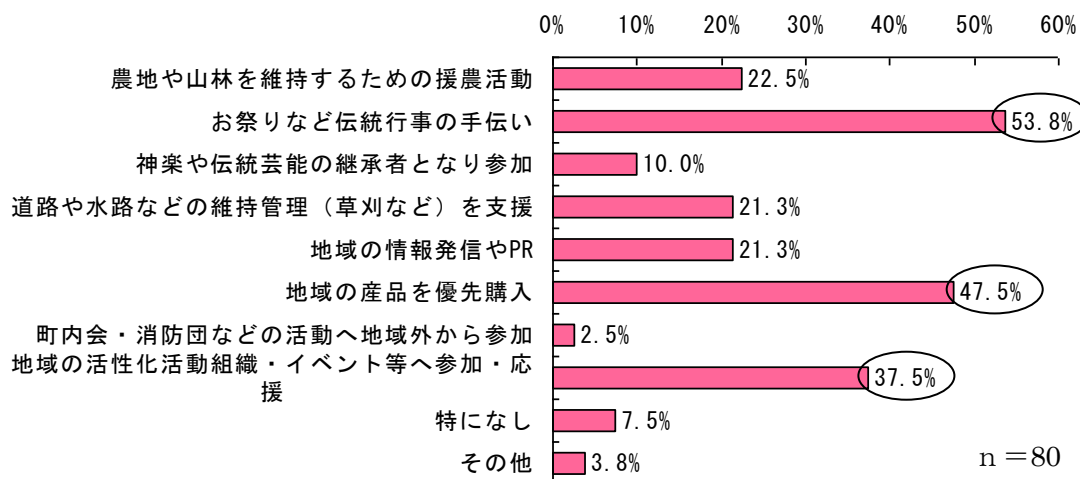
12 あなたは、出身地域の集落をこれからも維持していくことについてどのように考えていますか？ もっともあてはまるもの1つを選んで番号に○をつけてください。



- ・ 今後も出身地域を維持していくことについて、89.9%が「維持していく必要がある」と考えている。
- ・ 維持するための方法については「希望している人なら誰でも受け入れる」が37.5%で「行事に協力してくれる人に移住してもらう」が23.8%と、合わせて約6割の人が地域外の人材を受け入れると考えている。
- ・ 一方、「地元出身者が帰るようにする」は27.5%と2番目に多い結果となった。

## 他出者が出身地域のためにできること

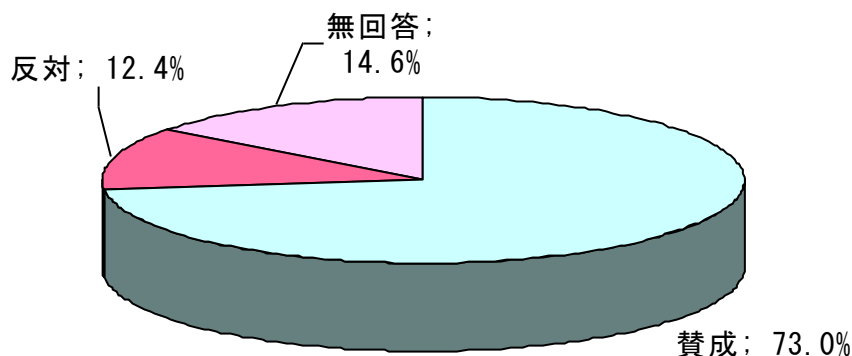
13 あなたが、出身地域（中山間地域）のために今協力できることはありますか。あてはまるものすべてを選んで番号に○をつけてください。



- 出身地域のために協力できることについては、「お祭りなど伝統行事の手伝い」が 53.8%と半数を超え、次いで「地域の産品を優先購入」が 47.5%、「地域の活性化活動組織・イベント等へ参加・応援」が 37.5%であった。傾向として、「神楽や伝統行事の継承者となり参加」や「町内会・消防団などの活動への地域外からの参加」といった集落を維持していく直接的な活動には消極的であるが、間接的、あるいは支援活動については協力する意識が高い。

## 中山間地域のための事業実施や新たな費用負担について

14 あなたは、中山間地域のための事業を市が行うことや、そのために必要な費用を市街地住民を含めた市民全体で新たに負担すること（例：水道料金への加算や森林環境税など）についてどう思いますか。また、その理由をお書きください。



- ・ 「賛成」が「反対」を大きく上回る結果となった。「賛成」「反対」理由の代表的な意見は下記のとおり。

### 【賛成の理由】

- ・ 高齢者世帯が多く、費用支払に負担を感じていると思われるため、その軽減を図る上で賛成である。
- ・ 森林を守る事は、都市部への水の確保上大変重要であるし、地球温暖化を防ぐ事につながっていく。

### 【反対の理由】

- ・ 市民全体なんてとんでもない。
- ・ 維持するに値する所は負担するのも賛成ですが、全地域を維持する必要はないと思う。

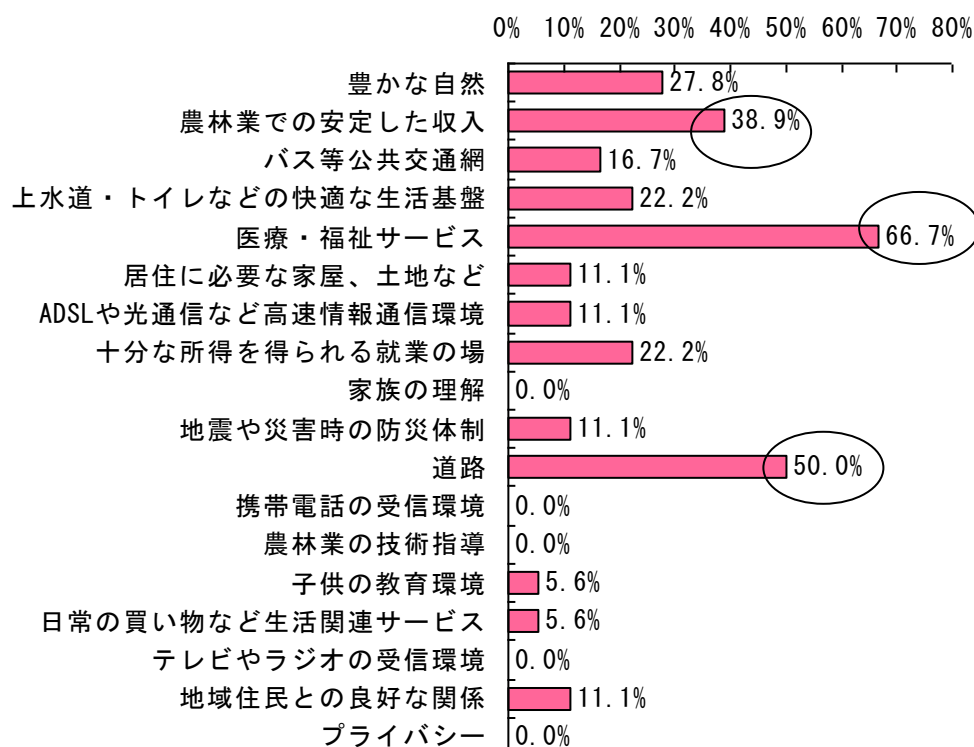
### 【その他（無回答）の意見】

- ・ 事業がどういった内容のものなのか分かりませんが、市街地住民が費用を負担するのは理にかなわないのではないのでしょうか。事業が市民全体の為になるのならば賛成です。
- ・ 新たに負担するとなると皆反対と思うが、このまま中山間地域を放置しておいては自然災害が発生したときなど、困るときがくると思う。

※「帰郷意思」と「生活に重要なもの」のクロス集計 ■帰郷する意思のある方

出身地域で暮らすために重要なものについて

11 あなたが将来出身地域で暮らすとしたら、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つ選んで番号に○をつけてください。

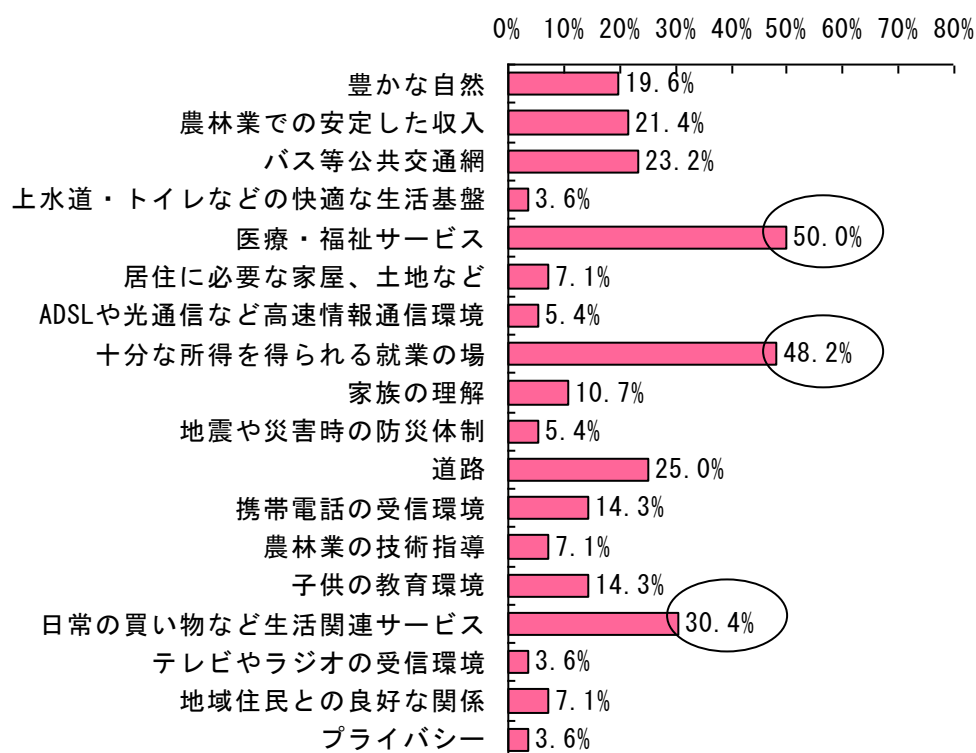


帰郷する意思のある方が、出身地域で暮らすために重要なものについては、「医療・福祉サービス」が66.7%と半数以上が重要と考えており、次いで「道路」が50.0%、「農林業での安定した収入」38.9%という結果となった。また、この3項目より割合は落ちるが、「豊かな自然」「上水道・トイレなどの快適な生活基盤」「十分な所得を得られる就業の場」で20%を超える結果となった。

※「帰郷意思」と「生活に重要なもの」のクロス集計 ■帰郷する意思のない方

出身地域で暮らすために重要なものについて

11 あなたが将来出身地域で暮らすとしたら、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つ選んで番号に○をつけてください。

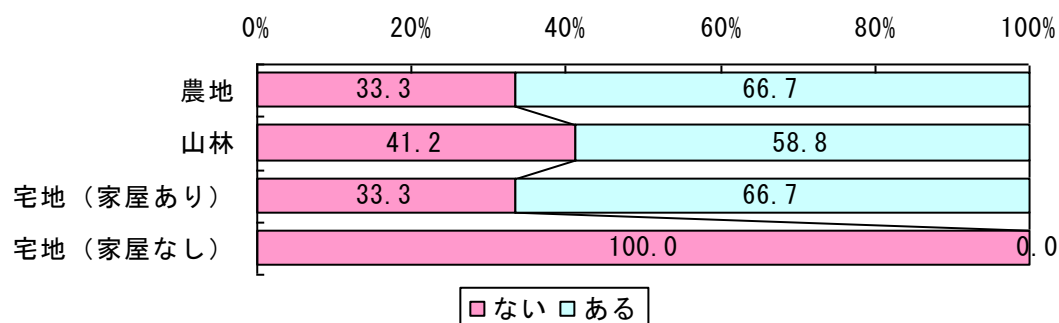


帰郷する意思のない方が、出身地域で暮らすために重要なものについては、「医療・福祉サービス」が50.0%と半数が重要と考えており、次いで「十分な所得を得られる就業の場」が48.2%、「日常の買い物など生活関連サービス」30.4%という結果となった。また、この3項目より割合は落ちるが、「道路」「バス等公共交通網」「農林業での安定した収入」で20%を超える結果となった。

※「帰郷意思」と「所有財産」のクロス集計 ■帰郷する意思のある方

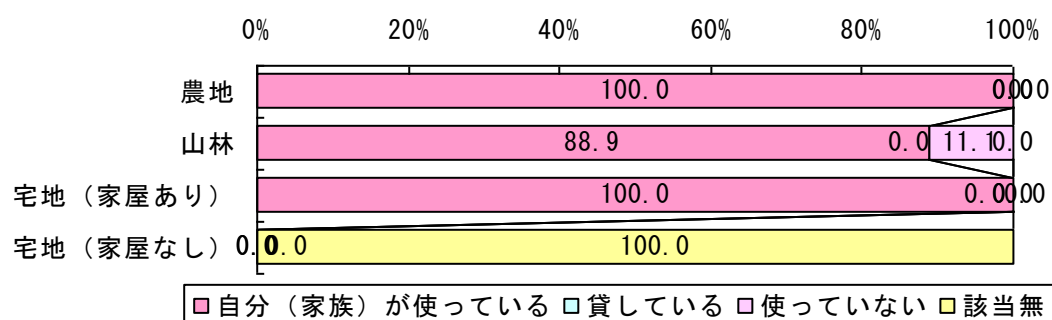
出身地域に所有している財産について

8 あなたまたは、あなたのご家族が出身地域に所有している財産はありますか。また、それらについて今後どのように活用をお考えですか？所有している財産それぞれについてもっともあてはまるもの1つを選んで番号に○をつけてください。

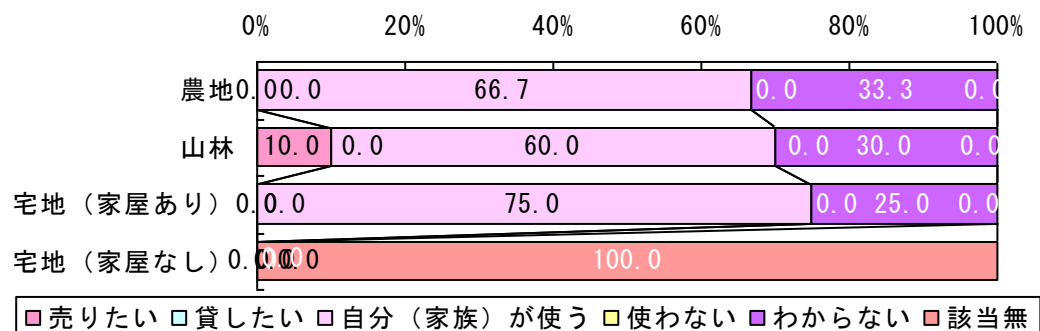


現在の状況

「ある」を選択した方



今後について



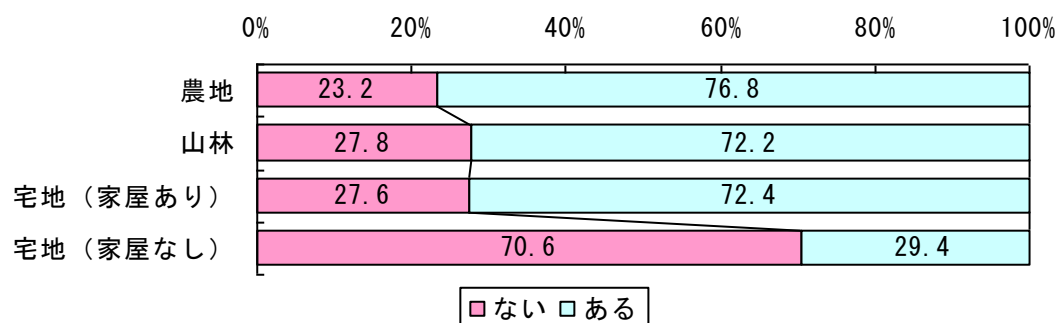
所有している財産については、「農地」66.7%、「山林」58.8%、「宅地（家屋あり）」66.7%とそれぞれ半数以上が所有しており、現在の使用状況については、いずれも「自分（家族）が使っている」が一番多かった。今後について「売りたい」は、「山林」10.0%となった。



※「帰郷意思」と「所有財産」のクロス集計 ■帰郷する意思のない方

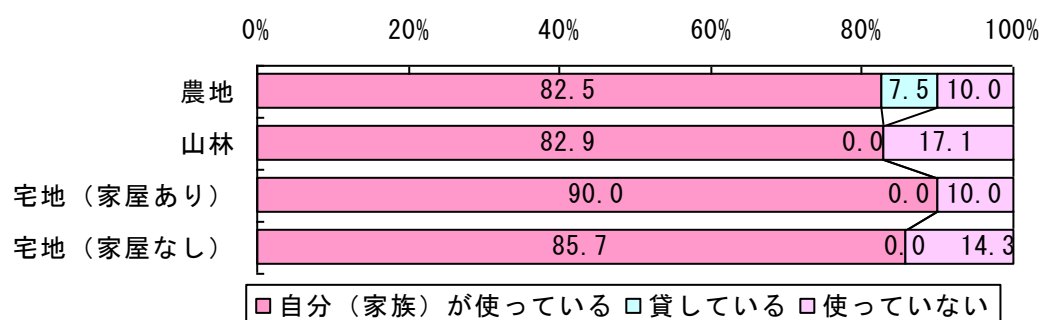
出身地域に所有している財産について

8 あなたまたは、あなたのご家族が出身地域に所有している財産はありますか。また、それらについて今後どのように活用をお考えですか？所有している財産それぞれについてもっともあてはまるもの1つを選んで番号に○をつけてください。

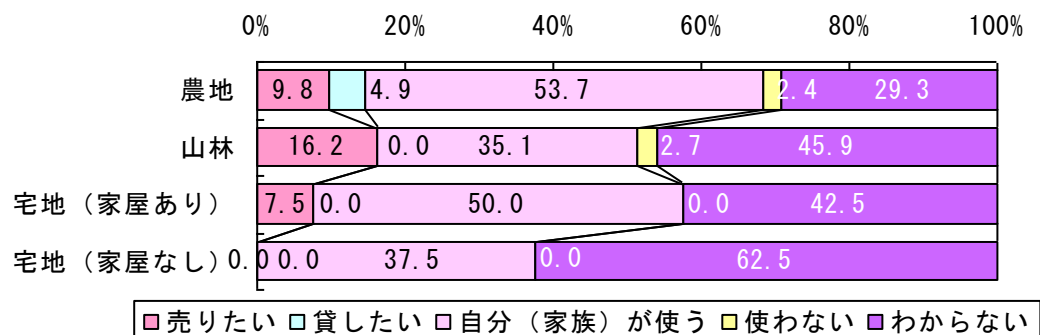


現在の状況

「ある」を選択した方



今後について



所有している財産については、「農地」76.8%、「山林」72.2%、「宅地（家屋あり）」72.4%とそれぞれ半数以上が所有しており、現在の使用状況については、いずれも「自分（家族）が使っている」が一番多かった。今後について「売りたい」は、「山林」16.2%、「農地」9.8%、「宅地（家屋あり）」7.5%となった。

## V 主要課題の整理

本計画の策定にあたっては、IV章に記載したとおり、住民意向調査として、ワークショップ、グループヒアリング、意見交換会等の多様な参加手法によって、中山間地域に居住する数多くの方から意見を聴取しました。

また、計画対象区域の市民代表や公募市民から構成される「静岡市中山間地域総合振興検討協議会」を設置し、市街地からその近郊に住む市民の視点も含めた意見を得るとともに、中山間地域出身者で、現在、転出している方を対象にアンケート調査を実施しました。

こうした調査等により得られた本市の中山間地域における主要課題を以下に整理します。

### 1 集落の基本的機能の維持

町内会活動、道路・水路の清掃作業、共同利用施設の管理など集落での生活に必要な活動や相互扶助などの基本的機能が維持困難となり、存続が危ぶまれる集落が増加し、対応が急務となっています。

中山間地域では、これまで、住民の相互扶助や強い絆によって集落が維持されてきましたが、近年、急速に進む少子高齢化や地域外への転出等に伴う人口減少により、集落の基本的な機能の維持が困難となる中で、存続が危ぶまれる集落が増加しています。

住民意向調査からは、高齢化や若者・子育て世代の都市部への流出などにより「お寺やお宮の清掃が大変である」「里道・水路の維持管理活動が困難になった」「町内会の役員のなり手がいない」「祭りや神楽などの伝統行事の担い手が不足している」など、社会的共同生活を継続していくことが困難な状況にあるという声が多く聞かれました。また、集落によっては、「祭りが無くなったため、皆で集まる機会も減って人間関係が希薄化している」「ほとんどが高齢者世帯でかつ各世帯の距離が離れているため、住民同士が集まることもなく近所付き合いも少なくなっている」など、従来ではあまり考えられなかった集落構成員の結びつきの希薄化という問題も指摘されています。

このような中であっても、大方の住民の意識としては、その集落に住み続けたい、集落を今後も維持していくために少しでも人口が増えてくれれば、と考えています。

このような集落の現状に対して、都市住民との交流により新たな地域の担い手を受け入れる方策や若者・子育て世代が定住できる環境を整えることにより、地域外に転出した子どもたち等呼び戻すような方策が求められています。

また、少子高齢化が極度に進み、集落人口が激減している集落については、単一集落での活動が困難になりつつあるため、集落間の連携、地域活動を支える体制を検討するとともに、これらの取組を支援していく必要があります。

## 2 住民が暮らし続けていくために求められるもの

(1)縮小化しつつある生活サービスの提供に対し、必要なサービスや環境を維持する仕組みづくりの検討が重要な課題となっています。

中山間地域では、生活していく上で必要な基本的サービスが不足している状況にあります。

人口の減少に伴って地域におけるサービス購入力が低下し、市場としての採算が合わない等の理由から、サービス事業の縮小や撤退が進み、それによりサービスが利用しにくくなるため、さらに取引が縮小し、市場が縮小していくといった悪循環に陥っています。また、企業間競争の激化や景気低迷等から企業の経営合理化が進み、それらが金融機関の支店等の統廃合として現れ、地域住民に不安を与えています。

住民意向調査からは、ピーク時に比べ地区内及び周辺の小売業の店舗の閉鎖が進んだため、住民は日用品や生鮮3品（精肉・鮮魚・野菜）などの買い物について、距離が遠く、時間がかかる市街地に近接した地域、もしくは市街地にあるスーパーマーケットや商店を利用しているという状況が判明しました。また、高齢などの理由によりそれらに通えない人は毎週数回程度地域を巡回している移動販売車や都市部に住む子ども達の支援により調達している状況にあります。特に、車の運転ができない高齢者は移動販売車を利用せざるを得ない中で、「便利」「助かる」という意見があげられる一方で「品揃えが悪い」「値段が高い」といった意見もあげられました。

高齢者を含む多くの住民は、現在のところ、車を運転できるので買い物をあまり不便だと感じていませんが、将来の不安として「車が運転できなくなったら困る」といった意見が数多くあげられており、この先、**車が運転できなくなった場合に備えたサービスの確保**が課題となっています。

農協や郵便局の金融サービス等に関しても、かつてに比べてサービスの縮小化が進みつつあり、さらに農協が一部地域から撤退するという具体的な案が検討されています。これに対して、住民意向調査からは、「現状を維持してもらえればよいが、年数十人規模で人口が減っているため、サービスが減少していくのではないかと不安」「農協がなくなったら金融サービスがなくなるので困る」「農協・郵便局を維持してほしい」という意見が多数あり、**農協・郵便局の支店存続問題**は喫緊の課題となっています。

また、生活に直結する水に関して、中山間地域ではほとんどの地域が簡易水道、または集落で独自に設置している給水施設によって飲料水が確保されていますが、人口の減少、高齢化により**給水施設の維持管理**が困難となっています。

このような状況を踏まえて、今後も住民が住み慣れた地域で暮らしていくため、また、新たに地域で暮らす住民を受け入れるためにも、これらの**生活をどのように維持**していくのか、その仕組みづくりを検討することが重要な課題となっています。

## (2) 高齢者のそれぞれの生活に応じてきめ細く支える体制づくりが求められています。

中山間地域においては、単身世帯や夫婦世帯の高齢化が顕著に現れており、今後、生活が困難になる世帯が急増するものと予想されます。

住民意向調査からは、高齢者世帯の大半では、他出している子どもから買い物や通院などのサポートを得ながら自立的な活動を維持しているという状況を把握しました。しかし、一部には、子どもが遠隔地に他出しているなどの状況からサポートを受けられないという世帯も存在しています。

その反面、中山間地域では、**デイサービスなど介護サービスの提供も不足していると感じている傾向**にあり、集落によってはサービスを受けるのが困難な集落もあります。

現在、特に大きな問題のない世帯であっても、今後不安に感じることとして「一人住まいになったとき」や「身体が自由が利かなくなったとき」といった意見が多く出されており、身内等から十分なサポートを受けられない世帯にとっての早急な対策はもちろん、将来の不安に備えた対策を現段階から検討していくことが重要な課題となっています。

こうした状況を踏まえた上で、**高齢者の生活を支えるサービスの確保や地域で高齢者を支える体制づくり**を早急に検討していくことが求められています。

## (3) 子どもの教育サービスを維持し、中山間地域の豊かな自然を活用しながら、子育て世代が暮らしやすい地域・環境づくりが求められます。

中山間地域は、豊かな自然環境に恵まれ、子どもを伸び伸びと育むことが可能な環境を有しています。しかし、現在、小中学校などの教育施設は各地区に配置されているものの、子どもが一人もいないという集落が各地にあるなど、若者・子育て世代の流出により子どもの数が減少しています。

住民意向調査からは、「将来、学校の複式学級化が進み、学校が廃校になるのではないかと不安」との声が多くあがっています。また、「遠距離通学には時間・費用がかかり大変」、「クラブ活動や習い事がしにくい環境にある」といった意見も出されています。

また、より高度な教育環境を求め「中学を卒業すると同時に地域から出て行ってしまい、それ以降戻ってこない」という声も多くあがっています。さらに、世帯によっては子どもとできるだけ長く暮らすため、就学に合わせて親子で地域外に転居するという事例も報告されています。

中山間地域の問題を考えると、教育環境は大変重要な課題であり、このまま子育て世代の地域外への流出や子育て世代が戻らない状況が続いた場合、さらなる子どもの減少という悪循環に陥ることが懸念されます。

そのため、地域に活力を呼び戻し、今住んでいる子どもの教育サービスを維持していくためにも、中山間地域の豊かな自然を活用しながら教育環境を整えるとともに、**子育て世代が暮らしやすい地域づくり、環境づくり**が求められます。

(4)健康面の問題や救急医療、防犯、防災への対応など安心・安全の体制づくりが求められています。

中山間地域における医療体制の特徴として、全体として診療所までの距離が遠く不便であること、診療所の数が少なく、診療科目も少ないなど、選択肢が限られているという状況があげられます。また、救急体制については、地域によって通報から救急車の到着までに1時間以上の時間がかかることもあり、道路状況によっては、さらに時間がかかるということも想定されます。

これらは人の生命に関わる問題であり、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らしたいという欲求は、最も基本的なものであることから、こうした不安の解消が早急に求められます。

住民意向調査からは、今後不安なこととして、健康面・医療面の不安から、地域の診療所機能の充実を望む声が多くあげられています。救急体制についても「脳の病気の場合、救急車が往復2時間かかるのでは助からない」といった不安が指摘され、そのため「用地を提供しても良いのでドクターヘリのヘリポートを整備して欲しい」という具体的な意見もあげられています。

また、近年、高齢者や子どもなどの弱者を対象とした犯罪が増加する中で、中山間地域においても「わけのわからない業者から電話があった」「不審者が来た場合の対処に困っている」「空き家に不審者やホームレスが住むようになったら困る」「警察の巡回を増やして欲しい」といった意見があげられ、安心・安全のための防犯体制づくりが求められています。

さらに、岩手・宮城内陸地震の際、土砂崩れにより道路が寸断され多くの集落が孤立し、住民が取り残された事例があることから、本市においても地震などの災害時に孤立が予想される集落への対策が求められます。特に高齢化や過疎化が進んでいる集落では、非常時の通信手段やヘリコプターの離着陸可能地の確保、ライフラインの確保、さらに、ハードの整備に加えて、普段からの地域連携の強化を図るといった体制づくりが重要となります。

### 3 集落を維持・発展させていくための基盤

(1)基幹産業である農林業の衰退により地域の担い手が不足し、集落存亡の危機につながっており、活性化のための対応が求められています。

本市の中山間地域においては、お茶、わさび、みかん、高地野菜などの良質な農産物が生産されていますが、地理的条件による生産性の低さや出荷時期の遅れによる単価の低迷などにより農家の収益性は低くなっています。

それに加え、シカ、イノシシ、サルなどによる農作物への被害は深刻で、これら鳥獣害への対策に要する経費と合わせて、農家の家計を圧迫しています。

また、林業についても、貿易自由化に伴う安価な輸入材との価格競争や木材に代わる建築資材の台頭により国産材の需要は低迷し、衰退の一途を辿っています。そのため、切り出せば木材として使用できるほど成長しているのに採算が合わないため放置されている森林が増加しています。

住民意向調査からは、「茶業・林業の価格低迷、肥料・資材の高騰により業として成り立たないため、子どもに継いで欲しいといえない」、「獣害に悩まされている」との意見が多くあげられています。

このように、基幹産業である**農林業で生計を立てることが困難**であるため、**若者は市街地に雇用の場を求め流出**しています。このことは農林業従事者の高齢化や後継者不足、さらには農業の衰退や集落存亡の危機にもつながっています。

そのため、中山間地域で生活していく若者を呼び込むためにも、**農林業の活性化や産業、雇用の創出**は重要な課題となっています。

## (2)安全、便利で快適な移動のための手段が求められています。

中山間地域では、道路の役割はきわめて重要で、買い物、通院、通勤、観光などすべての活動の社会基盤となっています。

しかし、様々な制約から道路整備が思うように進んでいないのが現状であり、幅員が狭くすれ違いが困難である点、カーブが多く走行しにくい点などが指摘され、住民意向調査においても**道路の利便性向上**を望む声は特に大きなものとなっています。

井川地区や梅ヶ島地区では、市街地まで1時間以内で到達できるよう道路整備に力を入れ、若者が市街地に**通勤**できるようにして欲しいという意見が多く、また、他の地区では、「災害時の早期復旧」や「待避所の設置」、「路側の砂利等の撤去」といった**日頃からの維持管理の徹底**を望む意見が多くありました。

一方、住民の足として重要な位置を占める路線バスは、中山間地域での生活に必要な不可欠な交通手段として、その存続が課題となっています。今後、中山間地域においては、さらなる高齢化が進み、自ら車の運転ができない住民が増えることが予想されることから、公共交通機関の需要増加も見込まれます。

しかし、現在のところ利用者は少なく採算が合わないため、見直しによる運行本数の減少や最悪の場合は路線廃止も想定され、これにより地域の暮らしの基盤が沈下していく懸念があります。

そのため、安全・快適に移動することができる道路整備を進めるとともに、地域内における交通手段としての**路線バスの維持、コミュニティバスの導入、過疎地有償運送法による交通手段の提供**などについて、多方面から検討することが重要な課題となっています。

(3) 地理的条件の克服のための有効な手段として、都市部と同様の情報インフラ整備が求められます。

高度に発展した情報通信技術は、今や日常生活、ビジネスの両面において欠かせない存在となっています。

特にインターネットは、空間及び時間的制約を受けないコミュニケーション・情報発信手段として、住民意向調査でもその必要性が指摘され、「情報インフラは整備されてきているものの、都市部との差が大きい」「通信速度が遅いため、子どもが地域に魅力を感じない」との意見があげられています。

今後の中山間地域におけるインターネット環境の整備は、むしろ地理的条件克服のための有効な手段として前向きに捉え、**ブロードバンド等、高速通信を整備**していく方向が望まれます。

携帯電話についても、日常生活や農業などの経済活動においても欠かせない通信手段となっています。住民意向調査では、「緊急連絡のため、つながるようにしてほしい」「茶の取引の際、つながらないと困る」「子どもが帰省した際に職場と連絡が取れないため長期滞在できない」などの意見があげられています。このように、地域住民の生活や仕事上の緊急な通信手段としてはもちろん、観光に訪れる都市住民も**携帯電話でいつでも連絡ができる環境**にあることは、滞在する上で重要な要素となっています。

そのほか、**テレビ**については「地上デジタル放送に変わった場合映るのか不安」との意見があげられており、**同報無線などの情報通信基盤**も含め、日常生活の上で、さらには緊急時や災害時対応のため、受信等の体制を整えていく必要があります。

#### 4 共有したい大切な視点

中山間地域が持つ多面的機能などの理解を深め、その存在意義を全市民で共有していくことが重要です。

中山間地域は、水源のかん養、国土・環境の保全などの多面的機能を有しており、これらは市民の生命や生活に対して重要な役割を担っています。中山間地域の住民は農作業や森林管理を行うことにより、これらの多面的機能を維持してきました。

しかし、人口減少や農林業の衰退などに伴い、これまでのように**中山間地域住民による農地や森林の維持・保全が困難**な状況が顕在化してきており、このままではこれら多面的機能が低下する恐れがあります。

一方、中山間地域が持つこうした機能がいかに本市にとって重要であるかという存在意義は、**都市住民にはあまり伝わっていないのが現状**です。

住民意向調査では、「水源、二酸化炭素の削減効果の点から、上流部の果たす役割は大きい。維持するためにはコストがかかることを市民のみならず行政も認識しないといけない」との意見がありました。

今後、多面的機能を維持・保全していくためには、都市部住民を含めた総ての市民の協力と行動が不可欠であり、それを実現するには、中山間地域への理解を深めながら、中山間地域の問題は自らの問題でもあるという考え方を共有していくことが重要となります。

以上、中山間地域における主要課題について整理してきましたが、これらは概ね全地域に共通している事項であるものの、最も大きな問題として捉えられている課題が地域によって異なっていることや、これらの課題が既に顕在化している集落、あるいは将来、現れることが懸念される集落など、地域によって様々であり、集落ごとに差が生じているということにも留意する必要があります。そのため、各集落の対策を講じるにあたっては、集落の課題特性に応じてきめ細かく対応していく視点が求められます。



## VI 目指す地域の姿と振興のための施策体系

### 1 基本理念

前章で整理した主要課題に対応するため、今後の本市の中山間地域の総合的な振興を図る上で重要な視点を基本理念として以下に示します。

#### 「中山間地域の存在意義の共有」によるまちの持続的発展

今後の中山間地域の振興を図る上で重要な視点として、中山間地域も都市部も同じ市域に属し、中山間地域と都市部がお互いに支え合い、分かち合いながら本市は成り立っているということ、つまり、相互に補完しながら存在しているということを認識する必要があります。

中山間地域が有している資源や機能による恩恵は、中山間地域に居住する人のみが享受しているわけではありません。例えば、本市の二大水源である安倍川と興津川も中山間地域の健全な森林が存在することにより、初めて都市住民が豊かな水の恵を得られるのです。言い換えれば、中山間地域の森林を守ることが静岡市民の水を守ることにつながると言えます。

このように、中山間地域には、水源のかん養、国土・環境の保全等の機能や多様なライフスタイル、癒しの空間を提供する場としての多くの機能が存在しますが、こうした中山間地域が有する資源や様々な機能を維持・保全していくことは、中山間地域住民に課せられているものではありません。

今後の本市を展望するとき、中山間地域の占める位置の重要性とその果たす役割を踏まえ、その存在意義を全市民が十分に理解し、意識を共有しながら、地域の維持・保全を図っていくことが求められるとともに、中山間地域と都市が互いに不足する機能を補完し合い、健全な都市として持続的な発展を遂げていくという点を尊重しながら施策を進めていくことが求められます。

## 2 目指す地域の姿

基本理念である「中山間地域の存在意義の共有」によるまちの持続的発展という基本的な考え方を尊重しつつ、今後、本市の目指す中山間地域の姿を以下に示します。

### 「山村と都市が共生・共育するまち 静岡」

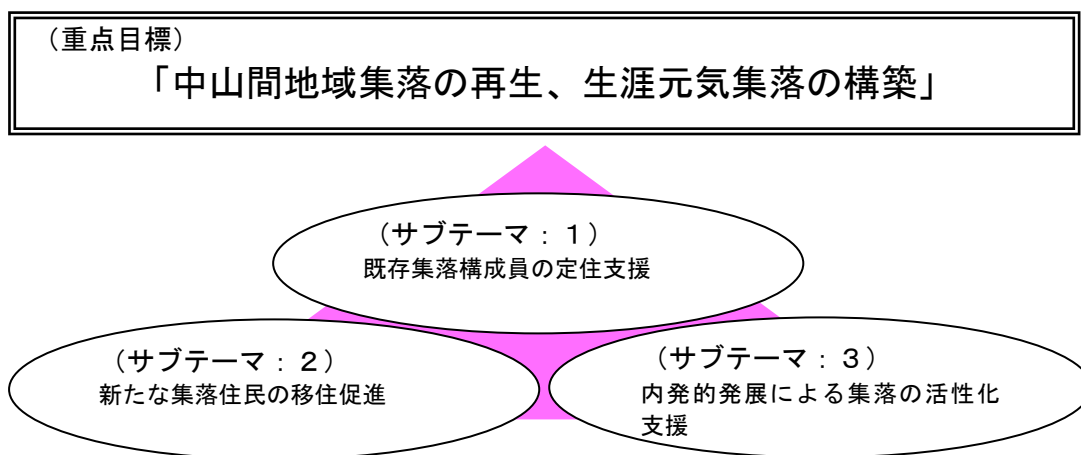
この目指す地域の姿は、具体的には次のような状態が達成されたものの総体としてイメージされます。

- 地域住民と都市住民が中山間地域の存在意義を共有し、森林や農地、豊かな自然景観が維持・保全される中で、都市と中山間地域に住む人々が共に生き、共に育む社会が形成されています。
- 中山間地域で育ったリーダーや都市住民が中山間地域のコミュニティや地域活動に関わることで、新たな発想のもとに様々な活動が活発に行われる中で、地域の魅力が再発見され、地域全体が誇りと活力に溢れています。
- 中山間地域で生産された農作物やこれをもとにした加工品などが市内で優先して消費・使用されることにより、これらの地域資源を活用した新たな産業や地域の担い手が現れています。これにより地域経済が活性化し、雇用が創出され、若者や子育て世代が仕事と家庭生活のバランスを持って楽しく暮らしています。
- 医療・福祉・教育・金融・商業など、生活に必要なサービスが確保されることで、子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らしています。
- 情報基盤や道路交通網が整備されることで、中山間地域と都市の距離が短縮され、地域住民と都市住民の交流が活発化しています。
- 地域内外との交流が進み、Uターン・Iターンによる定住化や二地域居住、中長期滞在者が増加しています。こうした個人個人の嗜好に応じた多様な生活スタイルの実現は、山村と都市が近接した中で豊かな自然の恵みを楽しみながら暮らす「静岡型のライフスタイル」として全国に情報発信されています。

### 3 重点目標

目指す地域の姿である「山村と都市が共生・共育するまち 静岡」の実現に向け、優先的かつ重点的に推進する施策として、「中山間地域集落の再生、生涯元気集落の構築」を重点目標として定めます。

この重点目標を達成するためには、集落に居住する人とその暮らしを支える産業が重要であることから、定住・移住・活性化支援をサブテーマとして設定し、優先的に施策を推進します。



#### ◆サブテーマと方向性

##### テーマ：1 既存集落構成員の定住支援

地域運営の基本単位である集落について、すでに居住している人たちが基本的な機能を維持しつつ、安心して住み続けることができる体制を確保するような取組を進めます。

##### テーマ：2 新たな集落住民の移住促進

若者の流出や急速な高齢化が進む集落では、既存の住民だけで集落を維持していくことは困難なため、新たな地域の担い手として地域外の人材を積極的に受け入れる取組を進めます。

##### テーマ：3 内発的発展による集落の活性化支援

住民が主体となって地域の魅力ある資源を掘り起こし、これらを活用することにより、新たな産業の育成や地域産業を維持・発展させるような内発的な産業育成への支援を進めます。

#### 4 政策大綱

目指す地域の姿である「山村と都市が共生・共育するまち静岡」を実現するため、総合的に施策を展開する「政策大綱」を次のとおり示します。

##### 大施策 1

##### 中山間地域における持続可能なコミュニティづくり

- ◆ 地域活動の核となり、地域を牽引していくことのできる人材を育て、精力的な活動を支援することで地域に活力を呼び戻します。また、それぞれの地域において地域運営に取り組むNPO法人や民間団体を育成・支援し地域活動の継続性を高めます。
- ◆ 地域住民、都市住民、地域内外のNPO法人、民間団体、企業など、さまざまな主体が連携・協働することによって地域コミュニティを支えていくなど、新たな地域運営の仕組みづくりを推進します。
- ◆ 集落それぞれの魅力を住民自らが掘り起こし、再発見する中で、他集落と差別化させた地域づくりを進め、観光客や来訪者がそれぞれの目的に合った行き先を選べるような情報発信の仕組みづくりを進めます。
- ◆ 中山間地域への理解を深め、愛着を持って活動する地域サポーターを組織するため、都市と山村の交流を図るとともに、その拠点となる場を整備します。
- ◆ 中山間地域で生活したい、活動したいと考えている都市住民の多様なニーズを満たし、新たな地域運営の担い手として活躍してもらうための住環境整備を促進します。
- ◆ 中山間地域において、その地理的条件を克服しさまざまな活動が可能となるように、また、地域住民のみならず観光客などの来訪者も安心して中山間地域に滞在できるように情報通信基盤の整備を推進します。

##### <施策の方向性>

- ・ 地域を支える人材・グループの育成支援
- ・ 新たな地域運営の仕組みづくり
- ・ 中山間地域ならではの魅力づくりと情報発信
- ・ 都市住民と山村住民との交流促進
- ・ 住みたくなる定住・移住環境の整備
- ・ 情報通信基盤の整備

## 大施策 2

### 安心・安全に暮らせる生活環境の確保

- ◆ 中山間地域に居住している人々すべてが今後も金融サービス、日用品調達のための商業サービスなど、日常生活においてなくてはならないサービスを確実に受けられるような体制や仕組みを構築し、生活を支援していきます。
- ◆ 高齢者については、買い物や通院のサポート、介護サービスなどが受けられるように中山間地域の特性にあったサービス提供の仕組みを検討するとともに、地域全体で高齢者を支える体制を構築し、単身者でも安心して暮らせる環境を整えます。
- ◆ 中山間地域に居住していても適切な診療が受けられるように、診療所の配置検討や医師の確保をしていきます。そして救急時においても患者を早く確実に搬送できるような体制や仕組みを整備し住民が安心して暮らせるよう努めます。
- ◆ 子育て世代が不自由なく暮らし、子どもの元気な声が聞こえる地域にするため、中山間地域の豊かな自然を活用した子育て環境を整え、また、少人数だからこそ実現できる目の行き届いた教育など、新たな方向性も視野に入れながら、安心して子育てができる地域の実現を目指します。
- ◆ 地震や自然災害発生の際に、集落が孤立しないように、また、万一孤立しても、残された住民に不安を与えないように非常時の通信手段やヘリ離着陸可能地の設置、ライフラインの確保を進めるとともに、日ごろからの備えとして、地域の連携強化を図る中で、防災体制の整備・充実を推進します。
- ◆ 安心・安全に暮らせる地域を実現するため、警察の巡回体制の充実等も促しながら、地域に住んでいる人達が協力・連携して行う声かけ運動などの防犯活動を推進し、地域による防犯体制を構築します。

#### <施策の方向性>

- ・ 住みよさを実感できる生活サービスの支援
- ・ 高齢者が安心して生活できる環境の整備
- ・ 安心して受けられる救急・医療体制の整備
- ・ 地域の特性を活かした子育て、教育環境の整備・支援
- ・ 災害に強い防災体制の整備・充実
- ・ 地域で支える防犯体制の整備

## 大施策3

### 中山間地域の資源を活用した産業の振興

- ◆ 中山間地域で生産されているお茶、わさび、みかん、高地野菜など良質な農産物の価値を高め、地理的条件や市場の動向に左右されず、農家が安定した所得を得るための仕組みづくりや取組を推進します。
- ◆ 条件不利な中山間地域においても、効率的・安定的に所得を確保できるように経営基盤の強化を図ります。また、農林業を維持していくために後継者の育成・確保のための取組を推進します。
- ◆ 中山間地域の既存資源や環境を活用し、都市住民が何度も訪れ、体験したくなるような地域独自の交流・体験教育メニューや受け入れ体制の整備を促進し、新たなビジネス創出へと誘導していきます。
- ◆ 地域課題の解決に貢献しながら、小さくても一定の雇用を生むコミュニティビジネスへの取組を支援し、その創出を誘導することにより、地域の活性化へとつなげていきます。
- ◆ 地域住民の雇用の確保や所得の増加を図るために、中山間地域に適合したビジネスを展開している企業立地を推進します。
- ◆ 地域住民、都市住民、企業、大学、NPO法人、行政などさまざまな主体の連携、ビジネスマッチングを推進することにより新たな価値やビジネスの創出へとつなげます。

#### <施策の方向性>

- ・ 農林水産物の高付加価値化
- ・ 農林水産業の経営基盤の強化、経営革新と担い手の育成
- ・ 交流・体験教育ビジネスの創出
- ・ コミュニティビジネスの創出
- ・ 企業立地の推進
- ・ 市民と産学官連携による産業・雇用の創出

## 大施策 4

### 市街地と中山間地域をつなぐ基盤整備

- ◆ 日用品等の生活物資の調達や都市部への通勤・通学・通院のため安全・快適に移動でき、また、都市山村交流や観光などが活発となるよう道路・交通網の整備及び交通手段の確保を推進します。
- ◆ 中山間地域と都市部が連携し、より快適な都市空間を創出するための土地利用を推進します。残すべき自然環境や農地を保全しながら、移住・定住できる環境を整えるなど、中山間地域住民、都市住民双方のニーズを満たし、市全体がバランス良く発展できるような土地利用を進めます。
- ◆ 地域住民と都市住民が気軽に集まることができ、イベントや交流活動などが活発に行われる体制づくりや中山間地域の魅力・地域情報などが発信できる拠点づくりを進めます。

#### <施策の方向性>

- ・ 暮らしを支える安全な通行と交通手段の確保
- ・ 地域振興につながる有効な土地利用の推進
- ・ 地域の魅力を活かした振興・交流拠点の整備

## 大施策5

### 森林の多面的機能の維持・保全

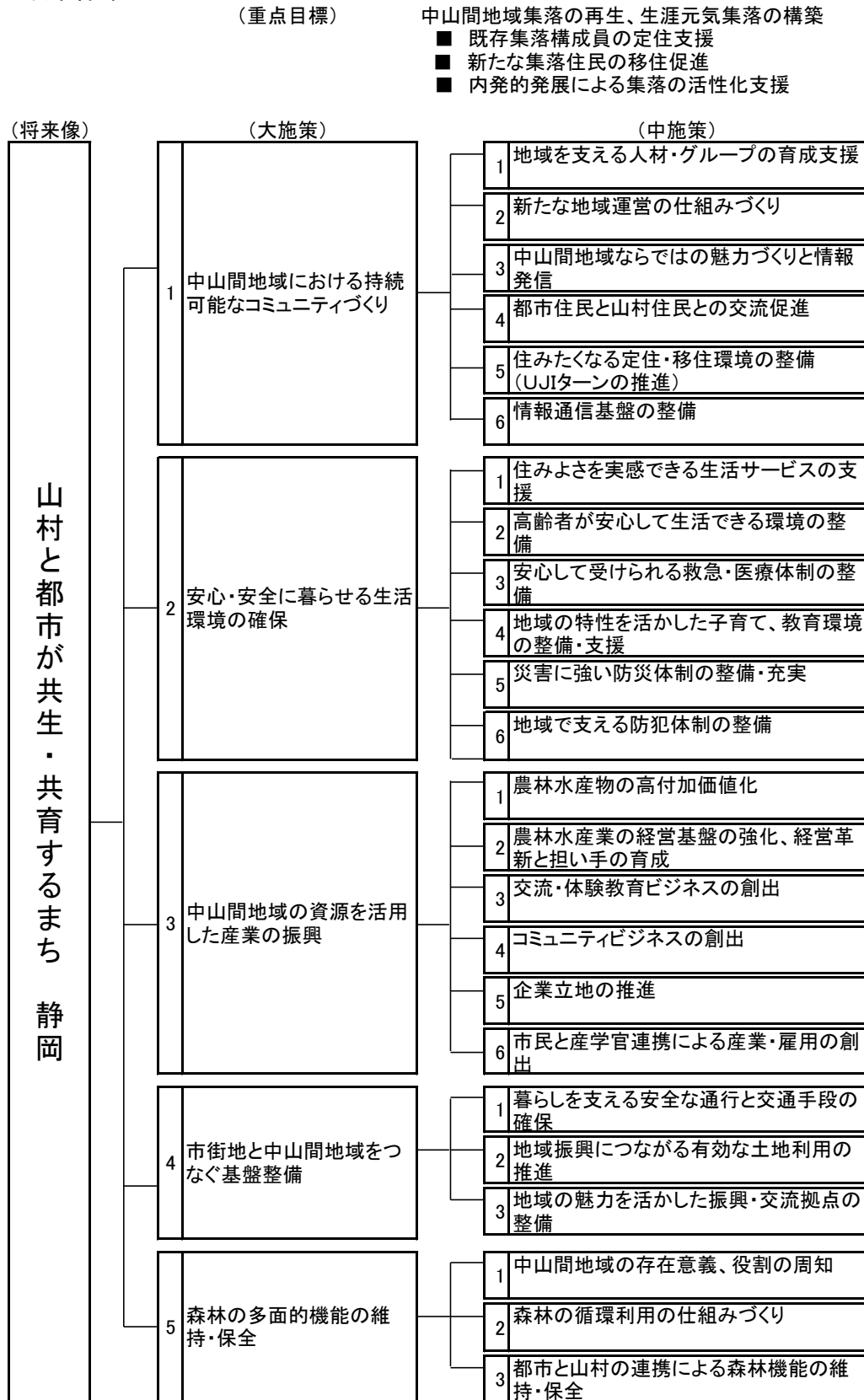
- ◆ 市民ぐるみで森林を維持・保全していくためには、中山間地域の存在意義や役割が市民全体で理解され、意識を市民全体が共有していくことが求められます。そのため、中山間地域の情報を広く発信することで役割を周知するとともに、中山間地域を身近に感じ、愛着を持ってもらうような取組を推進します。
- ◆ 森林を適正に管理し、放置林を解消することにより森林の多面的機能を維持・保全するとともに本市の地域資源である木材を有効に活用するための仕組みづくりを推進します。
- ◆ 健全な森林を次世代に受け継いでいくためには、中山間地域住民のみならず都市住民の協力が求められるため、それぞれが果たすべき役割を認識し、連携して維持・保全していくための仕組みづくりを推進します。

#### <施策の方向性>

- ・ 中山間地域の存在意義、役割の周知
- ・ 森林の循環利用の仕組みづくり
- ・ 都市と山村の連携による森林機能の維持・保全



## 5 政策体系



発行：平成 21 年 3 月

発行者：静岡市

編集：静岡市経営企画局経営企画部経営企画課

〒420-8602 静岡市葵区追手町 5 番 1 号

TEL 054-221-1114 FAX 054-221-1295